

施設見学（案）について

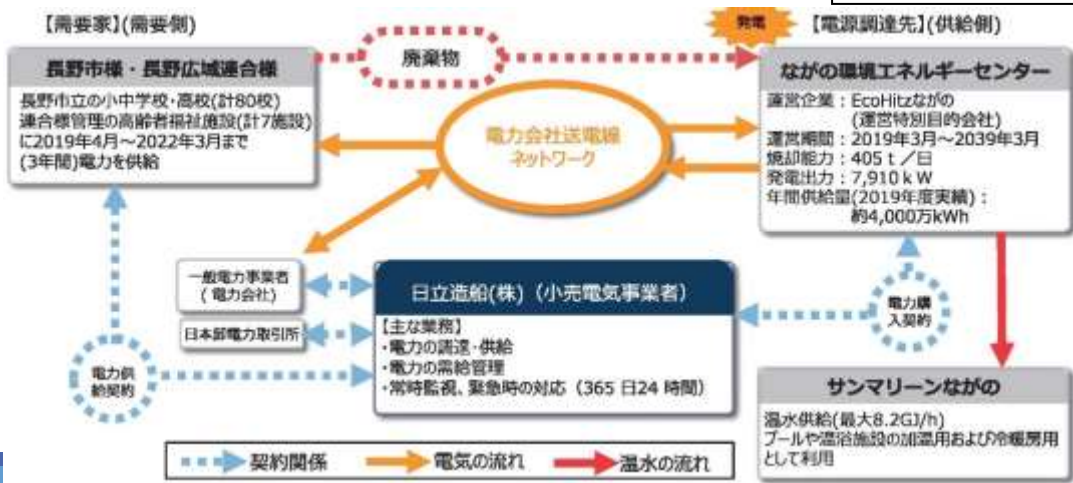
令和4年6月

ながの環境エネルギーセンター 熱供給と電気の活用



2019年竣工 処理能力 405トン/日
灰溶融炉22トン/日×2炉

ながの環境エネルギーセンターは、2019年3月に竣工した熱回収施設である。回収した熱エネルギーは、隣接するサンマリーンながののプールや温浴施設の加温及び冷暖房用に供給するとともに、発電した余剰電力を小売電気事業者である日立造船(株)が購入し、長野市立の小中学校及び高校80校に供給するモデル事業（3年間）を実施、また、長野広域連合が管理する高齢者福祉施設（7施設）にも供給している。犀川に隣接し、敷地を2m盛土するとともに各種水害対策を講じ、周辺住民などの一時避難所としての備えのほか、屋上ヘリコプター緊急救助用スペースや管理棟専用の非常用発電機も整えている。



ヘリコプター緊急救助用スペース



管理棟専用非常用発電機

光が丘清掃工場 地域熱供給による活用



2021年竣工 処理能力 300トン/日



光が丘団地

光が丘清掃工場は、2021年3月に竣工した熱回収施設である。

回収した熱エネルギーをもとに発電、売電を行うとともに、発電後の排熱を利用した熱供給事業を行っている。

熱供給先は大規模住宅団地である光が丘パークタウン（12,000戸）であり、清掃工場の発電後の復水排熱（55℃）を熱源として小型貫流ボイラにより暖房・給湯用に加温し、60℃を給湯している。

併せて、26℃程度の熱原水をサブステーションに供給し、ヒートポンプで60℃の温水を暖房用に供給している。また、施設系には45℃の温水を供給し、冷房用として高効率電動ターボ冷凍機を用いて7℃の冷水を供給している。



- (1)プラント
- (2)中心商業施設
- (3)光が丘清掃工場
- (4)光が丘第三中学校
- (5)春の風小学校、光が丘第二中学校
- (6)光が丘第四中学校
- (7)光が丘第八小学校
- (8)夏の雲小学校
- (9)四季の香小学校

高座クリーンセンター エネルギー利用と公園整備



2019年竣工 処理能力 245トン/日

高座クリーンセンターは、2019年4月に竣工した熱回収施設である。

回収した熱エネルギーをもとに発電、売電を行うとともに、隣接する高座清掃施設組合プールに熱供給を行っている。

また、整備事業は、既存施設敷地内において分散配置されていた破碎選別施設及び既存施設を集約する形でマテリアルリサイクル施設及び環境学習・啓発施設である環境プラザを含んでおり、跡地を公園整備している。令和元年12月には、遊具、防災設備等を有する本郷ふれあい公園（第一工区）が開園した。



本郷ふれあい公園（第一工区）



高座清掃施設組合プール



環境プラザ入口

船橋市北部清掃工場 農産物販売を含む余熱利用施設



船橋市北部清掃工場は、2017年4月に竣工した熱回収施設である。

施設から回収した熱エネルギーは、発電・売電による活用をしているほか、隣接する余熱利用施設（メグスパ）に供給し、地域の健康の保持増進や交流の場として利用されている。

メグスパには、大浴場、歩行浴プール、軽運動室などのほか、地元の新鮮な農産物や、おいしいパン、ふなばし産品ブランドをはじめ、様々な食材などを取り扱う産地コーナーも備えている。

2017年竣工 処理能力 381トン/日



メグスパ外観



大浴場



産地コーナー

ふじみ野市・三芳町環境センター 健康増進施設



ふじみ野市・三芳町環境センターは、平成28年10月に竣工した熱回収施設である。施設で回収した熱エネルギーは、発電・売電による利用のほかに、隣接する健康増進施設に熱供給し、地域の健康増進に寄与している。健康増進施設は「エコパ」といい、「ふれあい・交流・健康増進」をテーマに、子どもからお年寄りまで幅広い年齢層の利用者の方々に楽しまれている。県内初のバーデプール（健康増進用プール）や、地元の野菜を使ったメニューを提供するレストランなどが併設されている。



エコパ外観



エコパ施設一覧

村や住民が出資する株式会社が管理運営する 「道の駅 南信州とよおかマルシェ」



- ・地域の基幹産業である**農業の振興**が検討のきっかけ。
- ・**村や住民が出資する株式会社豊かな丘**が指定管理者となり、「農畜産物や林産物、加工物等地域特産物の直売所」「パン・ジェラートなどのテイクアウトショップ」「農家レストラン」を運営している。観光土産品の企画、製造及び販売、イベントや各種体験講座等の企画及び運営なども実施。
- ・また、地域住民の生活を支えるため、**民間スーパーマーケットを誘致**し、食料品や日用品の販売や、住民による農畜物等販売の支援、コミュニティスペースや行政情報の提供なども行っている。**コミュニティバス**により村内の全集落及び隣の町村とも繋がる。
- ・2021年5月には、隣に観光案内所、レンタサイクル、足湯、チョウザメの鑑賞ができる施設がオープンした。



村や住民が出資する株式会社が管理運営する 「道の駅 南信州とよおかマルシェ」

事業化の経緯

①構想・企画

- ・平成24年に豊丘村が「農村フォーラム」を主催。産直新聞社の代表である毛賀澤氏の講演を聞いて「**六次産業化**」のコンセプトに共感、**村としてその実現を目指す**ことになった。
- ・平成25年に**住民を主体とする40人ほどのプロジェクトチームを結成**し、六次産業化を検討。その結果、地域食材を活用した「直売所」と「農家レストラン」を作ることになった。また、運営法人として株式会社豊かな丘を設立することになった。**村役場に加えて、住民の出資で法人を設立**した。



②事業化

- ・**役場に加えて、農業関係の組合、商工会、金融機関からメンバー**が集まり事業化に向けた取組を開始。六次産業化検討の前から活動していたNPO法人とも連携した。こうした村内の様々な関係者が連携して準備を進め、活動の内容が認められて、内閣府の「小さな拠点税制※」の全国初の認定を受けた。
- ・平成29年には国土交通省から正式に「道の駅」として認定され、平成30年4月に開業した。

※小さな拠点税制：中山間地域等において、地方公共団体と連携し、地域産品の開発・販売や農家レストランの運営などのコミュニティビジネスや住民向け生活サービスを営む株式会社に対して、個人が出資した場合に、出資者に対する所得税の控除が受けられる制度。

住民参加でつくられた「二子玉川公園」



公園には、本格的な日本庭園や、住民と共に苗木を植樹した森、子どもたちがボール遊びを楽しめる広場、遊具の遊び場などがあり、親子連れで楽しめる。また、**災害時には避難場所**となる。

基本計画策定段階から、ワークショップ、検討会、分科会、オープンハウス、アンケートを通じた住民参加によりつくられた。開園後も**地域の人々がボランティアで「みどり」「安全安心」「こども」**をテーマに公園の日常的な管理運営活動を支援

住民参加でつくられた「二子玉川公園」

検討の流れ

平成21年度

公園検討会 5回開催

参加メンバー：区民委員、町内会、小中学校PTA、近隣商店街組合、
再開発組合等

検討内容：公園基本計画策定に向けての案づくり

平成22年度

公園ワークショップ 4回開催

参加メンバー：希望者

検討内容：公園施設をテーマ別に検討（植栽、遊び場、健康づくりについて）

平成23年度

公園ワークショップ 3回開催

参加メンバー：希望者

検討内容：住民による公園の管理運営検討、グループ活動の実践

平成24年度

公園ワークショップ 2回開催

分科会 18回開催

参加メンバー：希望者

検討内容：住民による公園での具体的な活動内容について



模型によるゾーニング検討



子どもによる遊び場検討



分科会